

刑事いさは索引

判ノ意義

故障ノ申立ニ因リテ消滅シタル罰金判決ハ
刑事訴訟法第四十條第四號後段ノ裁判ニ包
含セズ

刑法第二百九十八條ノ解釋

刑法第二百九十八條ハ犯人カ同一意思ノ發
動ノ下ニ甲者ニ對シテ攻撃ヲ加ヘタルモ打
撃ノ錯誤ニ由リ之ヲ逸シ豫想外ナル乙者ヲ
殺傷シタル場合ヲモ包含セルモノトス

刑法第三百九條ノ適用

刑法第三百九條ハ他人ヨリ暴行ヲ受ケ直ニ
怒ヲ發シ熱慮ノ暇ナクシテ其暴行者ヲ殺傷
シタル場合ニ適用スヘキモノトス

刑事訴訟法第三十條ノ旨趣

刑事訴訟法第三十條ハ海船内ノ犯罪ニ付キ
同第二十六條ノ裁判管轄ヲ擴張シタルニ過
キサルモノトス

刑法第二百二條ノ適用

私文書ヲ偽造シ之ヲ行使シテ財物ヲ騙取セ
ントシタルモ其目的ヲ達セザリシ場合ニハ
縱令私文書偽造行使ノ所爲ハ或前科ノ判決
確定前ニ在リトスルモ刑法第二百二條ヲ適用

二

一一

スヘキモノニ非ス
檢事ノ職務上作成スル報知書ノ
性質

檢事カ證人若クハ嫌疑者ノ出頭ヲ求ムル爲
メニ作成シタル報知書ハ官文書ナリ

刑法第三百二十七條ノ法意

刑法第三百二十七條ハ多業集合シ共同ノ意思
ヲ以テシタル暴動ニシテ社會ノ靜謐ヲ害ス
ヘキモノナル以上ハ首魁ノ有無ニ拘ハラズ
總テ之ヲ處罰スル法意ナリ

權利義務ニ關セザル證書

鹽卵種彙紙中何某ノ製造ニ係ルコトヲ記載
セル部分ハ何某ノ權利義務ニ何等ノ關係ヲ
有セザレハ該文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ
刑法第二百十條第二項ニ依リテ處斷スヘキ
モノトス

刑法第三百七十八條ニ所謂財物
ノ意義

刑法第三百七十八條ニ所謂財物トハ金錢上
ノ價值ヲ有スルト否トニ論ナク人カ其上ニ
或利益ヲ有スル物件ヲ汎稱ス

刑法第三百二十九條第二項ノ解釋

刑法第三百二十九條第二項ハ重傷ノ數ニ
應ジ數罪ヲ構成スルモノトシテ一ノ重傷
傷ノ行爲ニ從ヒ之ヲ處斷スルノ法意ニ非ス

刑事訴訟法第二百十八條第二項
ノ適用

檢事ハ被告事件ヲ陳述スヘシトノ規定ハ第
二審ノ公判ニ於テハ必スシモ之ニ準據スル
ヲ要セス

刑法第二百五條ノ犯罪構成

郵便局長カ數多ノ貯金預ケ人名義ヲ濫用シ
テ郵便切手ニ依リ貯金預入ノ事實ヲ管掌文
書ニ記載シ眞正ナル官文書トシテ行使シタ
ル所爲ハ刑法第二百五條ノ犯罪ヲ構成ス而
シテ其貯金預入カ制限額ヲ超過セザル爲メ
有效ナリトスルモ此事實ハ犯罪ノ成否ニ影
響ナシ

刑法第三百五條後段ノ適用

一箇ノ創傷ト雖モ二人以上共謀シテ負傷セ
シメ共犯中何人ノ所爲ナルヤヲ知ル能ハサ
ルトキハ刑法第三百五條後段ニ依リ之ヲ處
斷スヘキモノトス

刑事訴訟法第二百二十三條ノ被告

一三

五

三

五

三

五

三

五

三

刑法第三百二十九條第二項ハ其第一項ヲ承ケ
タル法文ニシテ不法ニ官吏ノ職務ヲ執行セ
シメタル場合ヲ規定シタルモノトス

刑法第三百六十八條ニ該當スル
竊盜犯

他人ノ倉庫ヲ開閉スル權限ヲ有スル者ト雖
モ其權限ヲ濫用シ竊盜ヲ爲スノ目的ヲ以テ
倉庫ノ鎖鑰ヲ開キタル以上ハ刑法第三百六
十八條ノ竊盜犯タルコトヲ免レンス

檢事ノ現行犯特別處分ト調書ノ
作成者

檢事カ現行犯ニ付キ臨檢、捜索又ハ被告入
ノ訊問ヲ爲ス場合ニハ立會書記調書ヲ作成
シ檢事ト共ニ署名捺印スヘキモノトス

刑法第三百九十一條ノ犯罪構成
要件

刑法第三百九十一條ノ犯罪ヲ構成スルニハ
幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ
乘シテ財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル
所爲アレハ足り別ニ被害者ニ對シ欺罔ノ手
段ヲ施シタル事實アルヲ要セス

刑法第三百五條後段ノ法意

刑事いさは索引

刑事いゝは索引

人ノ意義

同一犯罪事實ニ付キ共犯者トシテ訴追ヲ受ケタル者ハ判決確定其他正當ノ事由ニ依リテ公訴事件ヨリ脱退セサル以上ハ總テ刑事訴訟法第百二十三條第二號以下ノ被告人ニ包含スルモノトス

刑事訴訟法第二百六十八條ノ法律ノ意義

刑事訴訟法第二百六十八條ニ所謂法律トハ犯罪當時現ニ行ハレタル法律者クハ其以後上告趣意書提出ノ時迄ニ現ニ行ハレタル法律ノ義ナリ

縣會議員選舉人ニ對スル誘導行為

縣會議員選舉人カ或候補者ヲ選舉スルニ付キ自己ノ所屬部落ニ利害關係アル事項ヲ要求シ其承諾ヲ得テ之ニ投票シタルトモハ該候補者ノ所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第八十七條第一項第三號ニ所謂誘導ノ事實ニ該當ス

繼續犯罪ニ對スル起訴ノ目的

繼續犯罪ニ對スル起訴ニハ繼續セザル各所爲

六六

三三

六六

九三

一四

ヲ悉ク包含スルモノナレハ檢事ノ豫審請求書ニ明記ナキ點ト雖モ該犯罪ノ一部ヲ爲スヘキ所爲ハ起訴ノ目的ト爲リタルモノトス

刑法第二百四十六條第一項ノ解釋

新刑法第二百四十六條第一項ハ汎ク代金騙取ノ目的ヲ以テ冒認取替ヲ爲シタル場合ヲモ包含セルモノトス

刑事訴訟法第四十七條ノ趣意

刑事訴訟法第四十七條ハ檢事ノ管轄權内ニ屬スル事件ニ付テハ第二項ニ掲ケタル者ヲシテ自己ノ所屬官署ノ管轄區域如何ニ拘ハラズ其補佐トシテ常ニ犯罪ノ捜査ヲ爲サシムル趣意ナリ

刑法第九九條ニ所謂建造物ノ範圍

物置小屋ハ刑法第九九條第一項ニ所謂建造物ナリトス

刑法第六條ノ法意

新法ノ刑カ舊法ト同一ナル爲メ舊法ヲ適用シテ處斷スヘキ場合ニ於テモ先ツ新舊兩法ヲ比照セサルヘカラス

一〇一

一〇二

一〇三

一〇四

一〇五

刑事訴訟法第二百二十三條二號但書ノ法意

刑事訴訟法第二百二十三條二號但書(但書)ハ姻族ニ付テハ婚姻ノ解除ニ因リテ姻族關係ノ止ミタル場合ナルト否トニ論ナク總テ之ヲ親族ニ準スルノ法意ナリ

刑事訴訟法第四十條第四號ノ解釋

裁判所書記ハ豫審終結決定其モノニ干與スルモノニ非ザレハ刑事訴訟法第四十條第四號ハ書記ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

刑法施行法第五條ノ適用

罰金公債及ヒ停止公債ノ如キ附加刑ハ刑法施行前ニ在テモ判決ニ依リ管轄スヘキモノニ非ザリシヲ以テ刑法施行法ノ實施セラレルル今日ニ於テモ同第五條ハ判決ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

不法ノ原因ニ基ク給付

甲者カ犯罪ニ因ル損害賠償ノ債務ヲ不正ニ免レント企テ自己ノ不動産ヲ賣買ニ假裝シテ乙者ノ所有名義ニ移轉シ且賣買證書ヲ交付シタル所爲ハ民法第七百八條ニ所謂不法

刑事いゝは索引

三三

三三

三三

三三

文書偽造行使罪ノ共同正犯

數人共謀シ不正ニ行使スルノ目的ヲ以テ文書ヲ偽造セル以上ハ縱令共謀者ノ一人カ裁判所ニ向テ之ヲ提出行使シタルハ當初ノ所期ニ違フ行爲ナリトスルモ各、正犯タル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

府縣制第四十條ノ旨趣

府縣制第四十條ニ「衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス」トアルハ同法頒布ノ後行ハルヘキ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲモ準用スルノ旨趣ナリ

不法行爲ニ基ク損害賠償ト判決理由

事實裁判所カ不法行爲ヲ爲シタル者ニ對シ損害ノ賠償ヲ命スルニ當リ該行爲ト損害ノ間ニ因果ノ關係アルコトヲ證據ニ依リテ説明シタル以上ハ其損害ノ數額ニ付キ特ニ證據ヲ舉示セサルモ違法ニ非ス

文書ノ範圍

文部大臣カ所管各學校ニ頒布シタル教育勅諭附本ハ一ノ文書ナリ

三三

三三

三三

三三

一五

文書偽造罪ノ成立

偽造文書ヲ眞文書ナリトシテ行使スルニ於テハ文書偽造罪ノ完全ニ成立ス而シテ犯人カ其文書ヲ作成セル所爲ノ目的ニ從ヒテ之ヲ行使シタルト否トハ問フ所ニ非ス

附帯私訴ヲ提起シ得ル時期

公訴ニ附帯スル私訴ハ裁判所ニ公訴事件ノ繫屬セル場合ニ於テノミ之ヲ提起スルコトヲ得

第一審カ公訴ニ付キ既ニ兩席判決ヲ言渡シタル以上ハ更ニ故障ノ受理又ハ控訴ニ依リ事實裁判所ニ公訴事件繫屬スルニ非サレハ其公訴ニ附帯スヘキ私訴ヲ提起スルモ之ヲ適法ノ訴ト云フヲ得ス

文書偽造行使罪ノ構成要件

文書偽造行使罪ノ成立ニハ偽造文書ノ行使カ實害ヲ生シ又ハ生シ得ヘキモノタルコトヲ必要トスルモ被告ニ於テ他人ヲ害シ又ハ自己ヲ利スルノ意思アリタルヲ否トハ問フ所ニ非ス

分割シ得ヘキ判決ニ對スル全部

控訴

第一審カ同一被告人ニ對スル二箇ノ公訴事實ニ付キ一ノ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シタル爲メ各公訴事實箇箇獨立スルニ至リタル場合ニハ雖令檢察官該判決ノ全部ニ對シテ控訴ヲ爲スモ控訴審ニ於テ第一審判決ノ一部ヲ不當トシ其他ノ部分ヲ相當トスル以上ハ其不當ナル部分ノミヲ取消スコトヲ妨ケス

公選投票詐偽報告罪ニ對スル判決理由

刑法第二百三十六條ノ犯罪ニ付キ被告カ村會議員選舉掛ナルコトヲ判示シテ其職務ヲ明カニシタル以上ハ特ニ調査ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル任ニ在リシ者ナルコトヲ既示セサルモ不法ニ非ス

工業用酒精酒類戻税法違犯罪ノ成立

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法第六條ニ所謂請求トハ税金ノ下戻ヲ得ントスル請求者一己ノ片面的意思表示ヲ措稱ス從テ政府カ其請求ニ應ジタルト否トハ犯罪ノ成否ニ關係ナシ

國際條約ノ效力

國際條約ハ其締約國相互間ニ於テノミ之ヲ遵守スヘキ義務ヲ生スルモノトス

公判裁判所ノ決定ノ不履行

公判裁判所カ辯護人ノ申請ニ基キ證據書類取寄ノ決定ヲ言渡シ現ニ之ヲ取寄セタルニ拘ハラヌ其後公廷ニ顯出シテ取調ヲ爲サザルハ不法ナリ

公文書偽造行使罪ノ共同正犯

數人共謀シテ公文書ヲ偽造行使セント企テ其執行ニ從事シタル場合ニハ共謀者ノ一人ニ於テ自ラ行使ノ所爲ニ干與セザリントキト雖モ共ニ正犯タル責任ヲ免ルルヲ得ス

強姦創傷罪ノ共同正犯

強姦ヲ爲サンコトヲ共謀シ其目的ヲ達ケタル以上ハ該犯罪遂行ノ爲メ共謀者ノ一人カ被害者ニ創傷ヲ負ハシメタル行爲ニ付テモ其實ニ任スヘキハ當然ナリ

公判始末書ニ於ケル文字挿入ノ無効

公判始末書中裁判官渡ノ年月日ニ文字ヲ挿入シアルモ作成者ノ押印ナキ故ヲ以テ法律

刑事いんば索引

上無効ニ歸スル場合ト雖モ前同ノ公判始末書及ヒ該始末書未段ノ記載ニ微シテ其言渡ノ日ヲ確認シ得ル以上ハ該始末書ヲ無効トスルヲ得ス

合議裁判所ノ判決書ニ於ケル作成者ノ契印

合議裁判所ノ判決書ニ契印スヘキ場合ニハ其作成者中一名ノ契印アレハ足ルモノトス

強姦行爲ニ對スル公訴ノ範圍

檢察ニ於テ強姦ノ行爲ニ付キ公訴ヲ提起シタル以上ハ其強姦ニ因テ人ヲ死傷ニ致シタル行爲ハ該公訴事件ニ包含セラルルモノトス

公立小學校ノ受領セル教育勅語謄本ノ性質

文部大臣カ各公立小學校ニ下付シタル教育勅語謄本ハ各小學校所屬町村有ノ文書ナリ

公判手續ニ違背セル第一審判決ノ取消

第一審ニ於テ檢察官カ公訴事實ヲ陳述セザリシニ拘ハラヌ被告ニ對シ取調ヲ爲シタル場合ト雖モ控訴審カ其點ニ關スル原判決ヲ取

刑事いは索引

消シ被告ノ控訴ニ付キ適式ノ審理ヲ爲シタル以上ハ適法ノ起訴ナキ事實ニ對シテ刑科シタル違法アリト云フヲ得ス

公訴ノ辯論ヲ爲シ得ル時期

公訴ノ辯論ハ私訴ノ審理ニ着手セル後ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

告訴狀認料ノ賠償

告訴狀認料ハ犯罪行為ニ基固セル損害ナレハ裁判所カ損害ノ賠償トシテ之ヲ犯人ニ負擔セシムルハ違法ニ非ス

公訴ニ附帶スル私訴ノ審理手續

公訴ニ附帶スル私訴ハ其性質並ニ刑事訴訟法ノ規定上反對ノ結果ヲ生セサル限り民事訴訟ノ手續ニ依ルコトヲ妨ケス

控訴旨趣ノ陳述

同一事件ニ付キ檢事及ヒ被告ヨリ共ニ控訴ヲ爲シタル場合ニハ何レカ一方ノ者ニ於テ控訴ノ旨趣ヲ陳述スレハ足ルモノトス

公判始末書ノ整理及契印

公判開始中立會書記交代スルモ一通ノ始末書ヲ作成スレハ足ル而シテ立會書記二名ニテ一通ノ始末書ヲ整理シタル場合ニ於テモ

其一名ノ契印アレハ書類作成ノ要件ニ缺クル所ナシ

公證人ニ依ル無形偽造

公證人ニ對シ他人ノ代理人タル資格ヲ詐リ公正證書ヲ作成セシメ之ニ署名シタル所爲ハ新刑法第五百十八條第一項、第五百十七條第一項ニ開擬スヘキモノトス

公文書偽造行使罪ニ對スル判決理由

町村組合長ニ於テ區長ノ差出シタル辭職届ノ取扱方ニ付キ職務上疑義ヲ生シタル爲メ伺書ヲ部長ニ差出スルカ如キハ其職務上當然爲シ得ヘキ行爲ナルヲ以テ該伺書ヲ偽造行使シタル所爲ヲ明治二十三年法律第百號帝刑法第二百三條ニ開擬スルニハ判決ニ其公文書タル理由ヲ說明スルノ要ナシ

繪圖面ノ證據調

繪圖面ノ如キ證據ハ之ヲ被告ニ示シテ辯解セシメタル上ニ非サレハ斷罪ノ資料ニ供スルヲ得ス

演習召集ニ應セサル正當ノ事故

應召員カ勤務演習ニ堪ヘサル傷痍疾病ハ被

[て]

習召集ニ應セサル正當ノ事故ナリトス

三三

財產ノ脱漏及藏匿ノ意義

刑法第三百八十八條ニ所謂脱漏トハ財產ヲ賣買讓與スル等資産ヲ減少セシムル行爲ヲ指稱シ又藏匿トハ財產ノ假裝賣買ヲ爲ス等即チ之ヲ隠匿スル行爲ヲ指稱ス

在外韓國臣民ニ對スル領事裁判ノ準據法

明治三十二年法律第七十號ハ在外韓國臣民ニ對スル領事裁判ニ付テモ當然適用セラルヘキモノトス

詐欺ニ因ル契約取消ノ效果

詐欺取財ノ被害者カ契約取消ノ意思表示ヲ爲シタル以上ハ被害人ノ不法行爲ニ因ル賠償責任ハ其行爲ノ時ヨリ發生スルモノトス

竊取ニ託シテ人ヲ欺罔シ金錢ヲ騙取シタル場合ニ於テ被害者カ取消ノ意思表示ヲ爲シタル以上ハ欺罔者ニ對シ不法行爲ニ因ル損害賠償ヲ請求シ得ルモ欺罔者カ欺罔手段トシテ被害者ニ引渡シタル物件ニ付テハ被害者ニ對シ不當利得ヲ理由トシテ其返還ヲ請

[た]

電報送金ノ支拂ニ關スル慣例

電報送金紙ヲ銀行ニ持參シテ電報送金ノ支拂ヲ求ムル者アルトキハ取引銀行ノ電報案内ニ對照シ其持參人ヲ真正ノ債權者ト認メ直ニ支拂ヲ爲スハ普通ノ慣例ナリ

財產藏匿脱漏罪ノ成立時期

刑法第三百八十八條ノ犯罪成立時期ニ付テハ同條ハ廣ク家資分散ノ際ト規定シ必スシ

一九

三三

一九

三三

一九

刑事いゝは索引

求スルヲ得ス(ロ)

詐欺取財ノ未遂ニ對スル監視ノ附加

刑法第三百九十四條ノ監視ハ詐欺取財未遂ノ場合ニモ之ヲ附加スヘキモノナリ

再審ノ訴ノ代理

再審ノ訴ハ刑ノ官渡ヲ受ケタル者自ラ之ヲ爲スヘキモノトス

詐欺取財罪ノ贓物

電信爲替通知書ヲ偽造行使シテ郵便局ヨリ電信爲替證書ヲ騙取シ該證書ヲ引換ニ金員ヲ受領シタル場合ニ於テ其間意思ノ繼續アルトキハ該金員ハ詐欺取財罪ノ贓物ニ外ナラス

差押物件脱漏罪ニ對スル判決理由

差押物件脱漏罪ヲ斷スルニ當リ被告カ執達吏代理ノ假差押ヲ爲シタル物件ヲ他人ニ賣却セシ事實ヲ判定シタル以上ハ其差押ノ方法ヲ脱示セサルモ不法ニ非ス
蠶病豫防吏員ノ資格及其職印ノ性質

110

蠶病豫防吏員ハ公吏ニシテ其職印ハ公印ナリトス

作成者ノ契印ヲ缺ク判決書ノ效力

判決書ノ未業ト其前業ノ間ニ作成者ノ契印ヲ缺ク以上ハ雖令其未業ニハ裁判所書記ノ署名捺印ノミ存スルトキト雖モ該判決書ハ書類タルノ效力ヲ有セス

詐欺取財未遂罪ノ構成

小切手ノ所持人カ振出人ニ對シ償還ヲ求ムルニハ其券面金額中ヨリ百圓ヲ控除スヘキ義務ヲ負擔セルニ拘ハラズ百ノ字ノ誤記アルチ寄貨トシ小切手資金トシテ其全額ヲ交付シタルモノノ如ク主張シ支拂ヲ請求シタル所爲ハ詐欺取財未遂罪ヲ構成ス

詐欺取財罪ノ不成立

入チ欺罔シテ財産ヲ取得スルモ欺罔者カ其財産上ニ正當ナル權利ヲ有スルトキハ詐欺取財罪ヲ構成セス(イ)
被告カ被害者ニ對シテ欺罔手段ヲ施シタル場合ト雖モ後者ノ認識シタル事實ニシテ其真相ト顯露スル所ナキトキハ詐欺取財罪ヲ

111

112

(イ) 七六

(ロ) 七六

構成セヌ(ロ)

詐欺取財罪ノ成立

欺罔手段ヲ用非テ不動産買賣代金ノ配當ヲ要求シタル所爲ハ犯人ト債務者ノ間ニ刑法第三百七十七條ノ身分關係存在スルト否トニ論ナク詐欺取財罪ヲ構成ス

債權者ノ分配請求權

裁判所カ強制執行上債權者ニ分配スル爲メ金品ヲ保管スル場合ニ於テハ該金品ハ總令債務者ノ所有ナリトスルモ各債權者ハ執行上其分配ヲ受クヘキ權利ヲ取得セルモノトス

作成日附ヲ缺ク送達證書ノ效力

送達證書ニ作成ノ日附ヲ記載セサルモ其證書ノ無効ヲ惹起スルコトナシ

債權ノ準占有者

甲者カ乙者ナリト冒稱シテ發信人チ欺罔シ丙銀行ヨリ若干金ヲ受取ルヘキ旨ノ電報送達紙ヲ騙取シタル場合ト雖モ甲者ニシテ現ニ該送達紙ヲ占有シ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ其權利ヲ行使スルトキハ民法第四百七十八條ニ所謂債權ノ準占有者ニ該當セル

刑事いゝは索引

(ロ)

既遂及未遂ノ所爲ヲ包含スル一罪ノ科刑

犯人カ一定ノ範圍チ有スル犯罪行爲ヲ爲サントスル意思チ起シ其行爲ノ一部ヲ遂ケタル以上ハ爾餘ノ部分ハ意外ノ舛錯其他ノ事由ニ因リテ之ヲ遂行シ得サルモ包括的ニ其犯罪既遂ノ刑ヲ適用スヘキモノトス

起訴ノ目的ニ關スル判斷ノ自由

起訴ノ目的タル所爲ハ如何ナル種類ノ犯罪ヲ構成スルヤ又一罪ナリヤ否ヤハ公訴裁判所カ其職權ヲ以テ判斷スヘキ事實上並ニ法律上ノ問題ナリトス

恐喝取財罪ノ成立

村外シナル絶交ノ通告ニ因リ人チ長怖セシメ金品ヲ騙取シタル所爲ハ恐喝取財罪ヲ構成ス

勤務演習猶豫願ノ當否ノ判斷

歸休兵又ハ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ニシテ召集ノ期ニ後レ十日ヲ經過セル者カ召集期前勤務演習猶豫願ヲ提出シタル場合ト雖モ其届出行為カ正當ノ理由ニ基キタルモノナ

113

114

115

116

刑事いんば索引

ルヤ否ヤヲ判断スルハ事實裁判所ノ専權ニ
屬ス

偽證ノ間接教唆

偽證ノ間接教唆ハ刑法第二百二十五條、第
百五條ニ間接スヘキ犯罪行為ナリ

偽證ノ囑託者

刑法第二百二十五條ノ偽證囑託者ハ訴訟當
事者ニ限ラサルモノトス

忌避ノ裁判作成ノ形式

忌避ノ裁判作成ノ形式ニ付テハ刑事訴訟法
中何等ノ規定ナクテハ其作成者タル判事ノ
署名捺印アルヲ以テ足レリトス

偽證罪ノ構成

證人タル資格ナキ者ト雖モ證人トシテ宣誓
ノ上虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪ヲ
構成ス從テ其訊問手續ノ現理ノ如キハ犯罪
ノ成立ニ影響ナシ

偽證事件送致書ニ於ケル犯罪事實ノ記載方

刑事訴訟法第九十五條第一項ニ依リ證人
又ハ鑑定人ヲ豫審判事ニ送致スル場合ニ於
テ送致書ニ其供述不實ニシテ且故意ニ出テ

舊刑法第三百二十三條ノ解釋

光線ノ注射セサル暗室ニ入テ監禁シテ飲食
セシムル所爲ハ舊刑法第三百二十三條ニ所

刑事いんば索引

タル旨ヲ記載シ供述録取書ヲ之ニ添附スル
トキハ其犯罪事實ハ右二箇ノ文書ニ依リ之
ヲ明認シ得ルヲ以テ特ニ該事實ヲ送致書ニ
明記スルノ要ナシ

教唆罪ノ成立

被教唆者ヲ裁判所ノ審理判決ヲ受クルト否
トハ教唆罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

起訴ノ形式

刑事訴訟法ハ起訴ノ形式ニ付キ特別ノ規定
ヲ設ケサレハ檢事カ特定ノ人ニ特定ノ犯罪
アリトシテ之ヲ訴追シ其處罰ヲ裁判所ニ求
ムル意思ヲ表示スルニ於テハ起訴ノ要件ヲ
具備セルモノトス

偽造銀貨行使ノ意義

偽造銀貨ノ行使トハ之ヲ眞貨トシテ使用ス
ルノ義ニ外ナラス而シテ其使用方法ノ違法
ナルコトハ偽造銀貨行使罪ノ成否ニ何等ノ
影響ナシ

起訴ナキ事件ノ審判

裁判所カ起訴ナキ事件ニ對シテ判決ヲ爲ス
ハ不法ナリ

舊刑法第三條第二項ノ解釋

罰金刑ノ所爲ヲ施シタルモノニ該當ス

偽造文書行使罪ノ成立

行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ
使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文
書ヲ偽造シタルトキハ直ニ刑法第五百十九
條ノ文書偽造罪ヲ構成スルモノ之ヲ偽造シテ
行使シタルトキハ單ニ同第六十一條ノ偽
造文書行使罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス

偽造證書ノ行使

偽造ノ證書ヲ眞正ノ證書トシテ他人ニ提出
シ或證明ノ用ニ供スルニ於テハ其證書ノ本
旨ニ從ヒ之ヲ使用セル場合ト同シク行使ノ
事實アルモノトス

偽造印及偽造證書ノ沒收

偽造印及ヒ偽造證書ハ法律上其製作又ハ所
持ヲ禁止シ何人ニモ所有ヲ許ササルモノナ
レハ刑法第十九條ニ依リ之ヲ沒收スルコト
ヲ得

舊法ヲ適用スヘキ犯罪ニ對スル
刑名

舊刑法ヲ適用スヘキ犯罪ニ對シテハ同法ノ
刑名ヲ其儘存置スヘキモノニシテ之ヲ新刑

刑事いるは索引

法ノ刑名ニ變更シテ其旨渡ヲ爲スヘキモノニ非ス

舊法ヲ適用スヘキ場合ノ沒收處分

或犯罪ニ對シ舊刑法ヲ適用スヘキ場合ニハ沒收處分ニ付テモ亦同法ノ規定ニ依ルヘキモノトス

舊刑法第百四條及刑法第六十條ノ適用

裁判所カ共犯人各自ニ對シテ現ニ其刑ヲ科シタル以上ハ舊刑法第百四條及新刑法第六十條ヲ適用シタルコト自ラ明白ナルヲ以テ特ニ此等ノ法律ヲ判文ニ掲ケサルモ不法ニ非ス

郵便局長ノ職務權限

郵便貯金通帳ニ利子ノ記入ヲ爲ス事ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ノ職務權限ニ屬スルモノニシテ郵便局ノ職務權限内ニ在ラズ

郵便局長ノ職責

郵便局長ハ郵便貯金預ケ人ノ眞偽ヲ調査スヘキ職責ヲ有ス

〔み〕

ケル新舊法律ノ輕重ヲ比照スル場合ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス
民事原告人タル會社取締役ノ證人資格

刑事訴訟法中株式會社其他ノ法人カ民事原告人タルトキハ其代表者ヲ證人トシテ訊問スルコトヲ得サル旨ノ規定ナシ

〔じ〕

事實認定ノ前後矛盾セラル判決

刑法第三百八十八條ノ犯罪ニ付キ判文中事實理由ノ前段ニ於テハ被告カ財産ヲ脱漏セシト企テタル旨ヲ掲記シ其後段ニ至リ該財産ヲ眞實賣買シタルカ如ク假裝セシ旨ヲ記載スルハ不當ナレトモ之ヲ以テ破毀ノ理由ト爲スヲ得ス

事實及法律適用ニ關スル檢事ノ辯論

裁判所カ證據調濟ノ後事實及法律適用ニ付キ檢事ニ意見陳述ノ機會ヲ與ヘタル以上ハ檢事ニ於テ其意見ヲ陳述セサルトキト雖モ審理ヲ終結シテ判決ヲ爲スニ妨ナシ
上告審ニ於ケル公訴不受理ノ申立

刑事いるは索引

三三

三三

三三

三五

〔め〕

誘拐罪ノ構成

刑法第三百四十二條ノ誘拐罪ハ偽計其他入ヲ錯誤ニ陷ラシムルノ手段ヲ以テ十二歳以上二十歳未満ノ幼者ヲ他ニ伴行シ之ヲ藏匿若クハ他人ニ交付スルニ因リテ成立ス

明治三十八年法律第七十號ノ適用

明治三十八年法律第七十號ハ陸海軍刑法ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ軍法會議ニ於テ其旨渡ヲ爲シタル場合ナルト否トテ問ハス常ニ之ヲ適用セサルノ注意ナリ

明治三十八年法律第六十六號第一條第一條ノ旨趣

明治三十八年法律第六十六號第一條第一項ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ内外國何レノ銀行ニ係ルヤヲ問ハス外國ニノ流通スル金銀貨、紙幣、銀行券ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ニハ同條所定ノ刑罰ヲ科スルノ旨趣ナリ

明治十四年布告第八十一號ノ適用
明治十四年布告第八十一號ハ酒造税法ニ於

二四

三五

三五

三五

三五

三五

三五

三五

三五

三五

公訴不受理ノ申立ハ第一審第二審ノ裁判所ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得
實行行爲ニ下手セサル共謀者ノ刑責

數人共謀シテ罪ヲ犯サンコトヲ企テ一團ト爲リテ犯罪ヲ遂行セル場合ニハ縱令共謀者ノ一人ニ於テ實行ノ所爲ニ手ヲ下サザリシトキト雖モ尙ホ實行正犯タル責罰ヲ免ルルコトヲ得ス

執行猶豫ノ裁判ニ對スル上訴權利者

刑ノ執行猶豫ノ裁判ニ對シテハ檢事ニ限リ上訴ヲ爲ス權利ヲ有ス

酒造合資會社清算人ノ義務

酒造合資會社カ業務執行上犯法行爲ヲ爲シ其結末ヲ告ケスシテ解散シタルトキハ清算人ハ之ヲ結了セシムルノ職務アルモノトス
證人宣誓書ノ讀聞ニ關スル認定
證人ノ宣誓書ニ其署名捺印アル以上ハ該書面ノ讀聞ヲ受ケ其事ヲ了知セル後宣誓ヲ爲シタルモノト認ムルヲ當然トス

酒類製造免許人ノ責任

二五

三五

三五

三五

三五

三五

刑事いゝに索引

酒類製造ノ免許ヲ受ケサル者カ免許人ノ代理名義ヲ藉リ自己ノ爲メニ製造業ヲ爲シタル場合ト雖モ該犯則行爲ニ付テハ免許人其實ニ任スヘキモノトス

證據申請ニ關スル裁判ノ要件

證據申請ニ關スル裁判ヲ爲スニ當リ立會檢事ノ意見ヲ徵スルモ之カ爲メニ公判手續ノ無效ヲ來スモノニ非ス

酒精及酒精含有飲料稅法違犯罪ノ構成

荷モ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ製造スルニ於テハ酒精及酒精含有飲料稅法第十五條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其原料ノ尼斯ニシテ飲用ニ適セサル事實ハ犯罪ノ成立ニ影響ナシ證據調ノ申請ヲ受ケタル裁判所ノ職責

私訴判決ノ證據理由

公判裁判所カ證據調ノ申請ニ對シテ相當ノ裁判ヲ與フヘキ職責ハ部員變更ノ爲メ消滅スルモノニ非ス

出版法ニ所謂發賣ノ意義

發賣ノ目的ヲ以テ圖畫ヲ印刷シ之ヲ他人ニ賣却セル以上ハ唯一入ニ賣渡シタルトキト雖モ之ヲ發賣ト謂ハサルヘカラス

出版法第二十七條違犯罪ノ構成要件

出版法第二十七條及第二十八條第二項ノ犯罪ハ必スシモ公然ノ所爲タルヲ要セス

新舊法條ノ比照

新舊法條ヲ比照シ新法條ヲ輕シトスルトキハ舊法條ニハ附加刑ナク新法條ニノミ其般アリトスルモ全部新法條ヲ適用セサルヘカラス

衆議院議員選舉法罰則補則ノ改正

明治二十三年法律第四十號衆議院議員選舉法罰則補則ハ現行衆議院議員選舉法ニ依リ舊選舉法ト共ニ改正セラレタルモノトス

市會議長選定權ノ性質

市會議員カ其議長ヲ選定スルノ權利ハ議會又ハ市町村會ノ議員選舉權ト其性質ヲ同クセス

刑事いゝに索引

新聞紙條例第三十三條違犯罪ノ成立

新聞紙ニ掲載セル記事ニシテ社會ノ秩序又ハ風俗ヲ擾亂スルモノナル以上ハ掲載ノ目的如何ヲ問ハズ新聞紙條例第三十三條ノ制裁ヲ受ケヘキモノトス而シテ發行人編輯人ニ於テ其記事カ社會ノ秩序又ハ風俗ヲ擾亂スル事項ナルコトノ認識アリタルヲ否ヤハ犯罪ノ成立ニ關係ナシ

市町村會議員選舉罰則第七條ノ適用

市町村會議員選舉罰則第七條ハ新聞紙上ニ虛偽ノ廣告ヲ爲シタルカ爲メ單ニ選舉人中或者ノ心裡ニ疑惑ノ念ヲ惹起セシメ其決意ニ多少ノ障礙ヲ與ヘタル如キ所爲ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

市町村會議員選舉罰則第十六條ノ解釋

市會議員ノ選舉ニ付キ他人ニ投票ヲ得セシムル爲メ新聞紙上ニ虛偽ノ廣告ヲ爲シタル所爲ハ市町村會議員選舉罰則第十六條ニ所謂假札ノ類ヲ公然揭示シタルモノニ該當ス

市會議員ノ職務權限

市會議長ノ選舉ハ市會議員ノ職務權限ニ屬スルモノトス

受命判事ノ報告後ニ於ケル審理手續

刑事訴訟法第二百四十一條第二項ノ場合ニ於テ裁判所カ受命判事ヨリ適法ナル報告ヲ受ケタル後公判ヲ開キ該判事ノ訊問調書ヲ朗讀セシメ被告入ノ意見ヲ聽取リ且證據調其他ノ手續ヲ爲シタル以上ハ起訴事實全部ニ對シテ審理ヲ更新セサルモ違法ニ非ス

證據ノ調査判斷ニ關スル推定

證據ヲ調査判斷シテ其旨趣ヲ判決ニ揭示スルハ事實裁判所ノ職務ニ屬スルヲ以テ其手續ハ適法且誠實ニ之ヲ履行シタルモノト推定セサルヘカラス

衆議院議員選舉法第八十七條違犯罪ノ成立

衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ニハ選舉ニ關シテ金錢物品等ヲ供與シ又ハ供與スル申込ヲ爲ス主格ニ付キ何等ノ制限ナクテハ特ニ議員候補者ノミニ限ラス何人

刑事いるは索引

ト雖モ此等ノ行為ヲ爲シタル者ハ總テ同條
項ノ刑罰ヲ受クヘキモノトス

森林法第八十四條第二號ノ解釋

明治四十年法律第四十三號森林法第八十四
條第二號ニハ「其他ノ物品」ナル處況ノ文
字ヲ用非其物品ノ種類性質ニ付キ何等ノ制
限區別ヲ設ケザレハ森林竊盜ノ贓物タル木
材カ犯人ノ加工ノ結果木材以外ノ物品トシ
テ取引セラルヘキ別物ヲ形成シタルトキハ
其所爲ハ同號ノ場合ニ該當スルモノトス

新聞紙條例ニ所謂誹毀ノ罪及誹
毀ノ訴ノ意義

官吏侮辱罪又ハ之ニ對スル訴ハ其侮辱ノ内
容カ官吏ニ對シ誹毀ヲ組成スル場合ト雖モ
新聞紙條例ノ所謂誹毀ノ罪又ハ誹毀ノ訴ニ
該當セズ

私訴ヲ提起シ得ル時期

私訴ハ公訴ノ豫審機關中ト雖モ之ヲ公訴裁
判所ニ提起シ得ルモノトス

自用者ノ依頼ニ因ル織物製造ト
納稅義務

自用ノ爲メ織物製造ノ依頼アリタルトキハ

其製造者ニ於テ消費稅納付ノ義務ヲ負フモ
ノトス

社長ノ意義

社長ナル名稱ハ我國ノ取引上慣用セラルル
一種ノ熟語ニシテ會社ノ主席取締役ヲ意味
スルモノトス

實質上ノ一罪ニ對スル判決

冒認罪ヲ遂行スル爲メニ文書ヲ偽造シテ行
使シタル所爲ハ實質上ノ一罪トシテ處斷ス
ヘキモノナレハ該事實ニ付キ公訴ノ提起ア
リタル場合ニ於テ裁判所カ文書偽造行使ノ
點ヲ無罪ナリト判斷スルモ特ニ其旨ヲ主文
ニ列示スルノ要ナシ

酒造稅法施行規則第三十七條ノ
解釋

酒類製造業者カ一旦檢査ヲ經タル際ニ水
混和セル場合ト雖モ收稅官吏ヨリ酒造用原
料品ノ檢査ヲ受クヘキ旨ヲ命セラレタルト
キハ其使用前更ニ之カ檢査ヲ受クルコトヲ
要ス

實質上ノ一罪ニ對スル公訴時效
ノ完成

新舊森林法ノ比照

森林法違反ノ行為カ二箇以上俱發シ又ハ他
ノ犯罪ト俱發シタル場合ニ於テ舊法ニ依リ
其刑ヲ併加スルモ新法ノ數罪俱發例ニ從ヒ
テ選出シタル一ノ重キ刑ヨリ輕キトキハ舊
法ヲ以テ新法ヨリ輕シトス

森林主事ノ職務權限

森林主事ハ上官ノ指揮ヲ受ケ國有林野ノ立
木木材ノ檢査引渡等ニ用ザル極印ヲ保管ス
ルノ職務權限ヲ有ス

私訴審理手續ノ違法ト上告理由

裁判所カ公訴辯論ノ終了前民事原告人ナシ
テ被告ノ事實ニ付キ證人訊問ヲ申請セシメ
タルハ違法ナレトモ其手續ニ基キ成立シタ
ル調書ヲ附證ニ供セザリシ以上ハ之ヲ以テ
上告ノ理由ト爲スヲ得ズ

證人訊問調書ノ無效

刑事いるは索引

囑託ニ係ル證人訊問

證人訊問調書ノ無效ハ之ヲ適法ノ證據トシ
テ採用シ能ハサル結果ヲ生スルニ過キス

上告裁判所ノ職權

上告裁判所カ被告ノ上告ニ依リ第二審判決
ノ當否ヲ審査スルニ當テハ縱令其判決ハ宣
告當時ノ法律ニ照シ正當ニシテ之ヲ宣渡シ
タル裁判所ニハ何等ノ過失ナシトスルモ荷
モ現行刑法ノ規定ニ照シテ正當ナラザル以
上ハ之ヲ破毀シテ更ニ相當ノ判決ヲ爲サザ
ルヘカラス

審問終了後ニ於ケル偏頗ノ忌避

被告カ審問終了後裁判長ニ對シ偏頗ノ忌避
ヲ爲スモ其審問後ニ忌避ノ原因ヲ究知シタ
ルコトヲ疏明セザルトキハ該申請ヲ棄却ス
ヘキモノトス

小學校教員檢定委員會書記ノ賄
賂收受

府縣判任官ニシテ小學校教員檢定委員會ノ
書記ヲ命セラレタル者カ其職務ニ關シ人ノ

刑事いゝに索引

囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受スルニ於テハ舊刑法
第二百八十四條第一項ノ處罰ヲ免ルルコト
ヲ得ス

巡查ノ權限

巡查ハ告訴ノ受付ヲ爲スノ權限ヲ有スルモ
ノナリ

衆議院議員選舉法第九十八條ノ
趣意

衆議院議員選舉法第九十八條ニ於テ選舉無
資格者ノ投票ヲ禁スルハ被選舉人ヲシテ不
正ノ投票ヲ得セシムルコトヲ防止スルニ在
リ

證據物件目錄附記ノ採用

證據物件目錄ニ犯罪供用物件ノ出所ヲ示シ
タル附記アルトキハ之ヲ證據ニ採用スルモ
不法ニ非ス

新聞紙ノ編輯人兼發行人ノ責任

新聞紙ノ編輯事務ヲ發行ニ關スル事務トシ
一人ニテ兼掌スル者カ新聞紙條例第三十三
條ニ違反シタルトキハ一面ハ編輯人トシテ
他ノ一面ハ發行人トシテ其罪責ヲ負擔スル
ヲ當然トス

(八)

非訟事件手續法第百八十九條第
四號ノ解釋

非訟事件手續法第百八十九條第四號ノ所關
株主總會ノ決議ニハ商法第二百十三條ノ
報告ニ因リ總會ニ於テ作成セラルヘキ決議
錄ヲモ包含スルモノトス

被告人ニ對スル問查手續ノ省畧

公判裁判所カ審理ヲ更新シタルニ拘ハラズ
被告ノ氏名年齢身分等ヲ問查セザリシトキ
ト雖モ記録上此等ノ事項明白ニシテ現ニ人
違ナキ場合ニハ公判手續ノ無効ヲ惹起スル
コトナシ

非常特別稅法第十條ノ解釋

非常特別稅法第十條ハ織物ノ販賣ヲ業ト爲
ス者ニ對スル規定ニシテ販賣者外ノ一私人
ニ關スルモノニ非ス

肥料取締法第七條違犯罪ノ構成
要件

肥料取締法第七條ハ人ヲ欺罔スルコトヲ以
テ犯罪構成ノ要件ト爲サレハ特ニ其旨ヲ
判示スルノ要ナシ

人ノ住居シタル家屋ノ意義

刑事いゝに索引

八七

八三

八六

九三

九六

(九)

親告罪ニ於ケル告訴ノ性質

親告罪ニ於ケル告訴ハ犯罪ノ成立ニ必要ナ
ル實體的條件ニ非スシテ其訴追ヲ被害者ノ
意思ニ係ラシムル形式的條件ニ外ナラス

出版法違犯罪ト新舊法ノ比照

出版法違犯罪ノ罪ニ對シテハ刑法第六條ヲ適
用シテ新舊法ノ比照ヲ爲スヘキ限ニ在ラス

新舊兩法ノ比照ト法條ノ適用

裁判所カ召集不應事件ニ付キ新舊兩法ヲ比
照スル爲メ刑法第十條及ヒ陸軍刑法施行法
第二條ヲ適用シタルコト判文上明白ナルト
キハ特ニ其法條ヲ記載セサルモ不法ニ非ス

私文書ノ偽造行使

犯人カ他人ノ署名ト其偽造シタル他人ノ印
章トヲ使用シテ自ラ文書ヲ偽造シ之ヲ行使
シタル所爲ハ新刑法第六十一條第一項ニ
該當スルモノトス

私書ヲ偽造シテ行使セル所爲ノ
罪數

犯人カ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シ權利
義務ニ關スル文書ヲ偽造シテ自ラ之ヲ行使
シタル所爲ハ一罪ニシテ二罪ニ非ス

三〇

一〇三

一〇六

一一三

一二六

一三三

一〇六

(一〇) 一〇三

舊刑法第四百二條ニ所謂人ノ住居シタル家
屋トハ犯人以外ノ者カ現ニ住居ニ使用スル
家屋ヲ指稱ス

被告ノ辯疏ヲ排斥セル證據理由
ノ不備

苟モ犯罪事實ニ對スル證據ノ明示及ヒ其取
調手續ニシテ適法ナル以上ハ縱令被告ノ辯
疏ヲ排斥セル證據ノ明示又ハ其取調手續ニ
不備ノ點アリトスルモ之ヲ以テ判決ノ瑕違
ト爲サザ得ス

竊盜罪ノ成立

他人ノ所有物ニ關シ其所持權ヲ侵害シテ事
實上之ヲ自己ノ所持内ニ移シタル行爲ハ竊
盜罪ヲ完成ス而シテ犯人カ占有後安全ナル
場所ニ其目的物ヲ隱匿スルト否ト又其占有
ヲ保持スルト否トハ犯罪ノ成立ニ影響ナシ
(イ)

委託者カ或容器ニ物品ヲ入レ鎖鑰ヲ施シ之
ヲ他人ニ寄託シタル場合ニ於テ委託者カ其
鎖鑰ヲ開キ物品ヲ取出シタル所爲ハ竊盜罪
ヲ構成ス(ロ)

稅法違犯罪ノ訴訟條件

三二

一〇七

刑事いゝは索引

間接國稅犯則者處分法ニ依ル罰金ノ通告及
ト告發ハ稅法違犯罪ノ訴訟條件ナリトス

竊盜罪ノ公訴事實ノ範圍

竊盜罪ノ公訴事實ニハ贓物故置罪ノ事實ヲ
包含スルモノトス

選舉運動者ノ意義

衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號
ノ所謂選舉運動者ニハ金品手形其他ノ利益
若クハ公私ノ職務ノ供與又ハ其供與ノ申込
當時未タ運動行為ヲ實行セサルモ既ニ他人
ノ依頼ニ應ジ運動ニ從事セシムコトヲ承諾シ
タル者ヲモ包含スルモノトス

竊盜教唆罪ノ共同正犯

數人相共ニ他人ヲ教唆シテ竊盜ヲ爲サシメ
ント協謀シ之ヲ遂行シタル以上ハ共謀者ノ
一人ニ於テ自ラ教唆ノ所爲ニ干與セザルモ
俱ニ教唆者タル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

正當防衛行為ノ成否

被告ノ行為カ正當防衛行為ニ相當スルヤ否
ヤハ全然事實ノ判斷ニ屬スルモノトス

前發刑ノ通算ト新舊法比照ノ基
礎

三三

三三

〔す〕

審判法第百二條ニ所謂前發ノ刑ヲ以テ後發
ノ刑ニ通算スヘキ場合ニ於テ新舊法比照ノ
基礎タルヘキ對照刑ヲ求ムルニハ後發罪ニ
對スル法定刑ノ長期ヨリ前發ノ刑ヲ控除ス
ヘキモノトス

數箇ノ段階アル犯罪ニ對スル起

訴

數箇ノ段階ヲ經テ發展スル犯罪ニ付キ各段
ノ犯罪行為ニ對シ別ニ罪名ヲ設クル場合ニ
檢察方其一段階ノ所爲ヲ指摘シテ起訴シタ
ルトキハ裁判所ハ該犯罪ノ各段階ニ涉リ審
判スルノ職責ヲ有ス

數箇ノ法益侵害

人ヲ欺罔シテ金員ヲ騙取スルニ當リ他人ノ
製造ニ係ル贓卵種掃殺藥紙ノ反面ニ白紙ヲ
貼布シ検査ヲ受ケサル贓ヨリ出テタル蠟燭ヲ
以テ之ニ産卵セシメ検査合格ノ蠟卵種ナル
カ如ク變ヒ賣渡ノ約定ヲ爲シ之ヲ被害者ニ
交付シタル所爲ハ私文書偽造行使詐欺取財
罪ノ外別ニ贓物隱匿法第十三條及ヒ同法施
行規則第十三條ノ犯罪ヲ構成ス

數名ノ辯護人ニ對スル呼出及送

八五

送ノ手續

辯護人數名アルトキト雖モ期日呼出狀ハ必
ズシテ各自ニ一通ヲ發スルコトヲ要セス
辯護人數名ニ對シ共通ノ呼出狀ヲ發シタル
場合ニ其一名カ自己ノ爲メ且假住所主トシ
テ辯護人ノ爲メニ之ヲ受取リタルトキハ
其送達ハ無効ニ非ス

刑事いゝは索引

三三

三三

三三

三三

法 文 表

刑法	丁數	舊刑法	丁數
六 條	二〇九	三 條二項	八五
一〇 條	二二	一〇二條一項	二〇
一九條一項一號二項	二五	一〇三條	六四
六〇 條	二六	一〇四條	二六
一〇九條一項	三〇	一〇五條	一五
一五七條一項	三六	一三七條	三六
一五八條一項	三六	一三九條	三三
一五九條一項	三〇	一〇三條	六三
一六一條一項	三〇	一〇三條一項	一五
二四六條一項	二〇	一〇四條一項	三四
刑法施行法		一〇五條一項	六一
五 條	二九	一一〇條	四〇

二二〇條一項	九	三九一條	六
二二五條	一五	三九四條	三
二三六條	三	四〇二條	六
二八四條一項	九	刑事訴訟法	
二九八條	三	二〇條一項	五
三〇五條	三	二六條	一
三〇九條	三	三〇條	一
三二三條	一〇	四〇條四號	二
三四二條	七	四五條	二
三五一條	一	四七條二項	一〇
三六八條	五	七八條三項	一〇
三七七條一項	八	一〇二條	一〇
三七八條	三	一一三條二號乃至四號	六
三八八條	三	一二三條二號	二
三九〇條	三	一二三條四號	二

一三一條三項	八	出版法	
一四〇條一項	六	二七條	五
一九五條一項、二項	四	二八條	五
二〇三條一項	二	濫職法	
二四一條一項、二項	六	一條	六
二六八條	八	非常特別稅法	
衆議院議員選舉法		八條ノ二、二項三號	七
八七條一項一號	三	一〇條	八
八七條一項三號	八	酒精及酒精含有飲料稅法	
九八條	一〇	一五條	七
新聞紙條例		工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法	
二五條	七	六條	一
三三條	三	間接國稅犯則者處分法	
森林法		一〇條	七
八四條二號	七	一四條	五

關稅法	八三條	三六九
煙草專賣法	二二條一項	四九五
	二三條	四六五
	二四條	四八八
	二七條	二八九
	三四條一項	三六六
	四一條一項	一
	四一條ノ二	一〇一九
	四九條	四六五
	五〇條	四八五
陸軍刑法	一〇七條二項	二五五
陸軍刑法施行法		二五五
町村制	二一條	一一一
六八條六項		四二
市町村會議員選舉罰則	七一條	五〇三
一六條		五〇三
郡制	六八條一項	七〇三
府縣制	四〇條	六六六
河川法施行規程	三一條	八二五
河川法第四十七條ニ依ル命令	四一條二號三號	八二五
民法		

一九三條	八七
四七八條	一〇三
七〇八條	二八九
商法	
九一條一項一號	二七〇
二〇八條	八九
二〇九條一項乃至三項	八九
二二三條	八九
二二四條一項	八九
非訟事件手續法	
一八九條四號	八九
肥料取締法	
七一條	八三
蠶病豫防法	
一三條	四九〇
二〇條	四九〇
蠶病豫防法施行規則	
一三條	四九〇
林區署官制	
八一條	八五四
明治十五年布告第二十五號	
六一條一項	三九
明治二十三年法律第百號	
明治三十八年法律第六十六號	
一條一項	三八三

月日目錄

宣 告 月 日
 一 月 十 六 日
 一 月 二 十 日
 一 月 二 十 三 日
 一 月 二 十 三 日
 一 月 二 十 四 日
 一 月 二 十 七 日
 一 月 二 十 八 日
 二 月 三 日
 二 月 四 日
 二 月 六 日
 二 月 六 日
 二 月 六 日

刑部月日目錄

四 十 一 年 九 〇 號
 四 十 一 年 〇 〇 號
 四 十 一 年 七 八 號
 四 十 一 年 〇 八 號
 四 十 一 年 七 七 號
 四 十 一 年 〇 六 號
 四 十 一 年 二 三 號
 四 十 一 年 三 六 號
 四 十 一 年 四 七 號
 四 十 一 年 四 二 號
 四 十 一 年 四 四 號
 四 十 一 年 五 〇 號

裁 判 結 果
 棄 却
 棄 却
 破 毀
 棄 却
 棄 却
 棄 却
 棄 却
 棄 却
 棄 却
 棄 却
 棄 却
 棄 却

原 審
 大 阪
 宮 城
 宮 古 屋
 名 古 屋
 名 古 屋
 宮 城
 長 崎 城
 宮 城
 宮 城
 大 阪
 廣 島
 廣 島
 大 阪
 大 阪

丁 數
 一 四 六 九 二 三 三 四 五 五 七 三

五月五日
五月八日
五月八日
五月八日
五月十二日
五月十二日
五月十五日
五月十五日
五月十八日
五月十八日
五月十九日
五月二十一日
五月二十一日
五月二十一日
五月二十二日

四十二年 九三五七號
四十二年 九三三九號
四十二年 九三六五號
四十二年 九三六七號
四十二年 九三五三號
四十二年 九三八一號
四十二年 九三九七號
四十二年 九三八六號
四十二年 九三九六號
四十二年 九四〇三號
四十二年 九三九二號
四十二年 九四一八號
四十二年 九四三〇號
四十二年 九四二五號

棄 棄 棄 棄 棄 棄 破 一部破毀 一部破毀 破 棄 棄 棄 棄
却 却 却 却 却 却 毀 毀 毀 毀 却 却 却 却

廣 長 東 長 大 東 名 長 東 東 東 長 東 長 名 東 大 長 東 長 廣
島 崎 京 崎 阪 京 屋 崎 京 京 京 崎 京 崎 屋 京 阪 崎 京 崎 島

四七
四八
四九
五〇
五一
五二
五三
五四
五五
五六
五七
五八
五九
六〇
六一
六二

五月二十五日
五月二十六日
五月二十六日
五月二十八日
五月二十八日
六月四日
六月四日
六月五日
六月五日
六月八日
六月八日
六月九日
六月九日
六月十一日
六月十五日
六月十五日
六月十六日
六月十八日

四十二年 九四四二號
四十二年 九四三一號
四十二年 九四三五號
四十二年 九四四八號
四十二年 九四四八號
四十二年 九四五二號
四十二年 九四七四號
四十二年 九四七六號
四十二年 九四五五號
四十二年 九四八四號
四十二年 九四八三號
四十二年 九四九六號
四十二年 九四九二號
四十二年 九五〇七號
四十二年 九五〇七號
四十二年 九五〇七號
四十二年 九五〇七號

棄 棄 棄 棄 棄 棄 破 棄 棄 棄 棄 棄 棄 棄 棄 破 棄
却 却 却 却 却 却 毀 却 却 却 却 却 却 却 却 却

大 東 廣 廣 廣 東 宮 名 大 廣 廣 東 大
阪 京 島 島 島 京 城 屋 阪 島 島 京 京 京 古 屋 古 阪

六三
六四
六五
六六
六七
六八
六九
七〇
七一
七二
七三
七四
七五
七六
七七
七八

六月十九日
六月二十二日
六月二十九日
六月二十九日
六月二十九日
七月二日
七月三日
七月六日
七月七日
七月九日
九月四日
九月四日
九月八日
九月十八日

四十二年 九五二九號
四十二年 九四八二號
四十二年 九五〇四號
四十二年 九五二四號
四十二年 九五四〇號
四十二年 九五五六號
四十二年 九五六〇號
四十二年 九五七六號
四十二年 九五九七號
四十二年 九五八四號
四十二年 九六一二號
四十二年 九六一三號
四十二年 九六一六號
四十二年 九六二三號

破 棄 棄 棄 棄 棄 棄 棄 棄 棄 棄 棄 棄 棄 棄
毀 却 却 却 却 却 却 却 却 却 却 却 却 却 却

長 宮 東 東 東 長 東 名 東 東 長 東 名 東 東
崎 城 京 京 京 崎 京 屋 京 京 崎 京 屋 京 京

七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三

九月十八日
九月二十二日
九月二十二日
九月二十四日
九月二十五日
九月二十五日
九月二十八日
九月二十八日
十月五日
十月六日
十月八日
十月八日
十月十二日
十月十三日

四十二年 九六二九號
四十二年 九六三三號
四十二年 九六三七號
四十二年 九六四四號
四十二年 九六四五號
四十二年 九六六五號
四十二年 九六七一號
四十二年 九六三八號
四十二年 九六五〇號
四十二年 九六九〇號
四十二年 九七一七號
四十二年 九六二六號
四十二年 九七三四號
四十二年 九七五〇號
四十二年 九七一五號

破 棄 棄 棄 棄 破 棄 棄 棄 破 破 一 棄 棄 破
毀 却 却 却 却 毀 却 却 却 毀 毀 部 却 却 毀

長 大 長 大 大 大 名 東 大 大 長 大 長
崎 阪 崎 阪 阪 屋 京 阪 阪 崎 阪 崎

七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三 七三

人名音字目錄

人名	番號	原審	丁數
井上昌 彦外一名被	四十年 九二〇六號	長崎	四
稻山米治郎 告被	四十年 九二六四號	名古屋	三
生田 雅外八名被	四十一年 八三號	東京	二九
石坂音 彦被	四十一年 九三五號	東京	二四
稻田音 吉外二名公訴私訴 上告人	四十一年 八五號	大阪	二五
伊藤兼 吉私訴被上告人	四十一年 九五五號	宮城	二九
今田丑之助 公訴私訴 上告人	四十一年 八四號	大阪	三七
犬養敬次郎 私訴被 上告人	四十一年 八四號	大阪	三七
五十嵐清 吉被	四十一年 九號	東京	三〇
石井石五郎 公訴私訴 上告人	四十一年 〇〇號	東京	三一
池田友太郎外一名被	四十一年 八一八號	東京	三二
岩田現 次被	四十一年 四二五號	東京	三二

刑事人名音字目錄

井上七藏	被告	四十二年	れ六一三號	東京	七五
池田廣藏	被告	四十一年	れ六一六號	宮城	七二
池永重太郎	外一名 公訴私訴 被告	四十一年	れ六四五號	大阪	七〇
池田新太郎	外六名 被告	四十一年	れ七一七號	東京	八八
井上三郎	公訴私訴 被告	四十一年	れ七六〇號	長崎	八七
石原權策	外三名 被告	四十一年	れ七七三號	大阪	八二
井野英一	私訴上 被告	四十一年	れ八五〇號	名古屋	一〇三
井上新太郎	被告	四十一年	れ一〇二一號	名古屋	一〇六
池田正員	被告	四十一年	れ一〇二八號	廣島	一八〇
旗野美乃里	外一名 被告	四十一年	れ一二三二號	東京	九
早川榮吉	外六名 被告	四十一年	れ三七七號	名古屋	二九
島山正治	被告	四十一年	れ四三三號	函館	三四
林十郎	被告	四十一年	れ一八八號	大阪	三六
林伊助	外一名 被告	四十一年	れ三六七號	長崎	四九
橋本寅吉	私訴被告 被告	四十一年	れ三九七號	名古屋	五七

原田對一郎	被告	四十一年	れ四九二號	長崎	六五
原融	被告	四十一年	れ五四〇號	長崎	六九
芳賀利助	被告	四十一年	れ一〇一七號	宮城	一〇三
林熊次郎	被告	四十一年	れ九八二號	東京	一一
西郊亮親	被告	四十一年	れ二一〇號	東京	三六
西山辰彌	被告	四十一年	れ七六四號	宮城	八九
東郷常松	被告	四十一年	れ八一號	東京	一四
土岐鉞太郎	被告	四十一年	れ三三四號	東京	四〇
富岡熊藏	被告	四十一年	れ五一四號	東京	四八
徳永清太郎	外一名 被告	四十一年	れ七二七號	大阪	八四
千葉徳一郎	被告	四十一年	れ四五五號	宮城	三二
知名有興	被告	四十一年	れ一〇三〇號	大阪	一八三
アルパート、エー、ルイス	外一名 被告	四十一年	れ二一六號	東京	一七
アルパート、エー、ルイス	外一名 公訴私訴 被告	四十一年	れ七四五號	東京	八五
小野寺熊太郎	被告	四十一年	れ一三〇〇號	宮城	四

刑事人名音字目録

小島 孫七	被告	四十二年	れ一五二號	大阪	三六
大澤 貞	告訴人	四十二年	れ八五號	大阪	三五
表 八郎與門	被告	四十一年	れ一五九號	名古屋	三三
小原 忠	被告	四十一年	れ一八〇號	東京	三六
大野菊次郎	告訴人	四十一年	れ一九九號	東京	三五
大森利 助外一名	被告	四十一年	れ一四一號	廣島	三五
大川 漸	被告	四十一年	れ二一三號	函館	三九
小倉 鐵志	被告	四十一年	れ四八三號	長崎	三九
小野 將	被告	四十一年	れ七一五號	東京	三八
大井 鉄	被告	四十一年	れ七七一號	東京	三八
小畑 新	告訴人	四十一年	れ七六〇號	長崎	八三
小田井敏 夫	告訴人	四十一年	れ八二〇號	名古屋	九四
大山菊治郎	告訴人	四十一年	れ八一〇號	名古屋	九四
鬼窪 ハツ	告訴人	四十一年	れ一〇一九號	東京	二六
和田 義文	被告	四十一年	れ一二四二號	廣島	三五

〔わ〕

〔か〕

渡部 龜治	被告	四十一年	れ二一九號	宮城	二三
和田千太郎	被告	四十一年	れ五九號	大阪	三九
渡邊 昌子	被告	四十一年	れ二九五號	大阪	三九
渡邊四郎	被告	四十一年	れ五五六號	東京	七六
渡邊 兵吉	告訴人	四十一年	れ七七五號	宮城	八六
若杉 榮一	被告	四十一年	れ一〇三七號	長崎	二五
鹿子木和人	告訴人	四十一年	れ一二二四號	長崎	七
梶原 宗秀	告訴人	四十一年	れ一二二四號	長崎	七
加藤 太市	被告	四十一年	れ六八號	宮城	二五
川西宗左衛門	被告	四十一年	れ六七號	名古屋	二四
金野 金治	被告	四十一年	れ二二〇號	宮城	三七
加藤 謙吉	被告	四十一年	れ二八〇號	名古屋	四六
勝山 ナツ	被告	四十一年	れ四四二號	大阪	五九
河野 周作	被告	四十一年	れ四三五號	廣島	六五
金子 兼松	被告	四十一年	れ四七四號	大阪	六五

刑事人名音字目録

[よ]

上山友三郎外二名公訴上	四十二年	れ六四五號	大阪	七〇
金子義三	四十二年	れ六九〇號	東京	八五
上谷權吉	四十一年	れ八六二號	長崎	一〇三
吉田勝博	四十一年	れ二六四號	名古屋	四三
吉村伊次郎	四十一年	れ三三九號	長崎	四三
吉羽源作	四十一年	れ四九六號	東京	四三
米谷新助	四十一年	れ七九七號	大阪	六八
高橋喜三郎	四十一年	れ一二五〇號	大阪	三
高橋藤太	四十一年	れ一五五號	宮城	二九
高梨傳藏	四十一年	れ一〇〇號	東京	三三
田北長五郎	四十一年	れ二〇〇號	長崎	三四
竹ノ下鷹士	四十一年	れ二四〇號	東京	三三
田中健太郎	四十一年	れ五〇七號	名古屋	六三
田久保外八外一名	四十一年	れ五七六號	東京	七五
武弘宜路	四十一年	れ六二六號	廣島	八三

[九]

[な]

[の]

田村真作	四十一年	れ七三四號	東京	八七
高崎庄三郎	四十一年	れ七四三號	長崎	八三
高岡源三郎外二名	四十一年	れ七八八號	大阪	九八
田中喜三郎	四十一年	れ七九七號	大阪	九六
丹原槌之助外一名	四十一年	れ八三四號	廣島	九九
高橋量平	四十一年	れ一〇〇八號	東京	二五〇
塚本徳次	四十一年	れ一六四號	東京	三六〇
辻	四十一年	れ六二七號	長崎	七六
永井嘉兵衛	四十一年	れ一四七號	大阪	四三
中川留治郎	四十一年	れ二二八號	東京	三七〇
永江爲政	四十一年	れ三五三號	大阪	五三
中川祐造	四十一年	れ四三一號	東京	六三
中村仁右衛門	四十一年	れ六七一號	名古屋	九一
名倉牧之進	四十一年	れ七七五號	宮城	八八
長尾文藏	四十一年	れ一〇〇四號	廣島	二五

〔む〕

向井一太郎被

四十二年 四七三號

廣島

二〇五

〔ろ〕

牛込喜一被

四十年 一二三八號

東京

二五

浦上玉吉被

四十一年 一〇七號

東京

二三

上田澤江私訴被上告人

四十一年 九〇號

大阪

二九

内山文五郎私訴被

四十一年 三〇二號

長崎

四三

白井宗七郎外一名被

四十一年 四〇三號

長崎

五六

上田千代造公訴私訴

四十一年 七八二號

大阪

八九

上村米太郎外一名被

四十一年 一〇三三號

長崎

二九四

〔の〕

野中喜一郎被

四十一年 一〇九號

東京

四二

野原幸太郎外一名被

四十一年 五〇四號

名古屋

六八

〔く〕

栗原軍吾被

四十一年 五二四號

東京

七三

久保田正喬被

四十一年 一〇二三號

大阪

二二三

山田千代太郎被

四十一年 一一七八號

名古屋

六

山口久右衛門公訴私訴

四十一年 一一七七號

宮城

二

山中家齋被

四十一年 三九二號

東京

五五

〔や〕

〔ま〕

山口千代松被

四十一年 五八四號

東京

七五

山邑太左衛門私訴被

四十一年 六三三號

大阪

七三

山中松之助外一名被

四十一年 六五〇號

廣島

八七

山田千代太郎被

四十一年 七八五號

大阪

九三

山下磯治郎被

四十一年 一一二號

東京

九二

松川武左衛門外一名公訴私訴

四十一年 九一號

宮城

一六

眞部金兵衛私訴被上告人

四十一年 九〇號

大阪

二九

町田久一郎被

四十一年 四號

東京

三七

丸尾半助被

四十一年 九五號

長崎

三九

増田福太郎外六名被

四十一年 三八一號

東京

五六

松井和三郎被

四十一年 四三〇號

名古屋

五七

前島惣太被

四十一年 五六五號

名古屋

七三

松島忠治被

四十一年 六一二號

東京

七五

松村辰次郎上告人

四十一年 六六五號

東京

七六

收力藏被

四十一年 七六三號

大阪

八四

刑事人名音字目録

丸山長	松被	四十二年	れ八八一號	宮城	二〇九
松岡昌	平外二名公訴私訴上告人	四十二年	れ九一五號	大阪	二〇九
松岡準	彦外六名私訴上告人	四十二年	れ九一五號	大阪	二〇九
松田貞	治被	四十二年	れ一〇二二號	名古屋	二六二
古庄善太郎	外八名被	四十二年	れ三二八號	長崎	二六二
福田吉太郎	被	四十二年	れ一二四號	名古屋	二六二
藤原安太郎	外一名被	四十二年	れ一七五號	廣島	二六二
藤代光	藏外一名私訴上	四十二年	れ一九九號	東京	二六二
福原藤郎	九被	四十二年	れ四四八號	廣島	二六二
藤本繁	松被	四十二年	れ六三四號	大阪	二六二
藤川庄三	三郎私訴被	四十二年	れ七八二號	大阪	二六二
小先助三	郎被	四十二年	れ一五號	廣島	二六二
小林初次	郎公訴私訴上	四十二年	れ三九七號	名古屋	二六二
小暮ハツ	外一名私訴上	四十二年	れ一〇一九號	東京	二六二
小暮ゼ	ン私訴被	四十二年	れ一〇一九號	東京	二六二

〔五〕

〔三〕

〔五〕

〔七〕

〔あ〕

遠藤永	吉被	四十二年	つ六號	東京	二〇九
江坂伊	八被	四十二年	れ四八二號	東京	二〇九
遠藤永	吉被上	四十二年	れ六六五號	東京	二〇九
寺田善	作外一名被	四十二年	れ一九七號	東京	二〇九
足立庄太	郎被	四十二年	れ一九〇號	大阪	二〇九
淺野彌	助被	四十二年	れ二〇八號	名古屋	二〇九
赤谷由兵	衛私訴被	四十二年	れ一七七號	宮城	二〇九
愛澤留	吉被	四十二年	れ四六號	函館	二〇九
相田徳	松被	四十二年	れ四八號	廣島	二〇九
秋月隆	臣被	四十二年	れ三五七號	廣島	二〇九
青木助	藏被	四十二年	れ四八四號	東京	二〇九
安部桂太	郎外一名被	四十二年	れ六二三號	長崎	二〇九
赤池重左	衛門被	四十二年	れ六一一號	東京	二〇九
赤間直	吉被	四十二年	れ七六八號	廣島	二〇九
淺田加	穂外二名被	四十二年	れ一〇四〇號	廣島	二〇九

刑事人名音字目録

判事人名索引

[5]	笹島庄三郎 <small>被告</small>	四十年	れ一二四七號	宮城	二七
	佐藤兼藏 <small>被告</small>	四十一年	れ一〇六號	宮城	二七
	佐々木サト <small>被告</small>	四十一年	れ二四四號	宮城	二七
	佐野比呂美 <small>被告</small>	四十一年	れ三六五號	東京	四〇
	榑原隆吉 <small>被告</small>	四十一年	れ八二一號	名古屋	四八
	澤田庫之助 <small>被告</small>	四十一年	れ七九八號	宮城	四八
	佐野篤 <small>被告</small>	四十一年	れ九一九號	大阪	四八
	金在 <small>同被告</small>	四十一年	れ五二二號	長崎	四八
	北川留吉 <small>被告</small>	四十一年	れ三〇二號	長崎	四八
	水谷三治郎 <small>被告</small>	四十一年	れ五一八號	大阪	四八
	木下末吉 <small>被告</small>	四十一年	れ五二九號	東京	四八
	貴島正之進 <small>被告</small>	四十一年	れ五六〇號	東京	四八
	北島庄兵衛 <small>被告</small>	四十一年	れ七三四號	東京	四八
	南助 <small>被告</small>	四十一年	れ二三一號	東京	四八
	三宅九平 <small>被告</small>	四十一年	れ三八六號	長崎	四八

[6]	三好虎之助 <small>被告</small>	四十一年	れ六三三號	大阪	七三
	三浦茂 <small>被告</small>	四十一年	れ八九二號	名古屋	一〇三
	水谷甚五郎 <small>被告</small>	四十一年	れ八五〇號	名古屋	一〇三
	水野保太郎 <small>被告</small>	四十一年	れ八五二號	大阪	一〇三
	美藤市太郎 <small>被告</small>	四十一年	れ九二六號	廣島	一〇九
	三輪郁治郎 <small>被告</small>	四十一年	れ九七二號	名古屋	一一〇
	宮本正次郎 <small>被告</small>	四十一年	れ一〇〇〇號	廣島	一一三
	島田亮外 <small>被告</small>	四十一年	れ一二二三號	宮城	一一三
	紫垣熊藏 <small>被告</small>	四十一年	れ一二四五號	長崎	一三〇
	志賀利寧 <small>被告</small>	四十一年	れ一四四五號	大阪	一三〇
	清水恒造 <small>被告</small>	四十一年	れ一〇二二號	大阪	一三〇
	檜垣幾之助 <small>被告</small>	四十一年	れ一四四號	廣島	一三七
	東德次郎 <small>被告</small>	四十一年	れ三九六號	東京	一三九
	東本長藏 <small>被告</small>	四十一年	れ四七六號	名古屋	一三九
	東市右衛門 <small>被告</small>	四十一年	れ四七六號	名古屋	一三九

判事人名索引

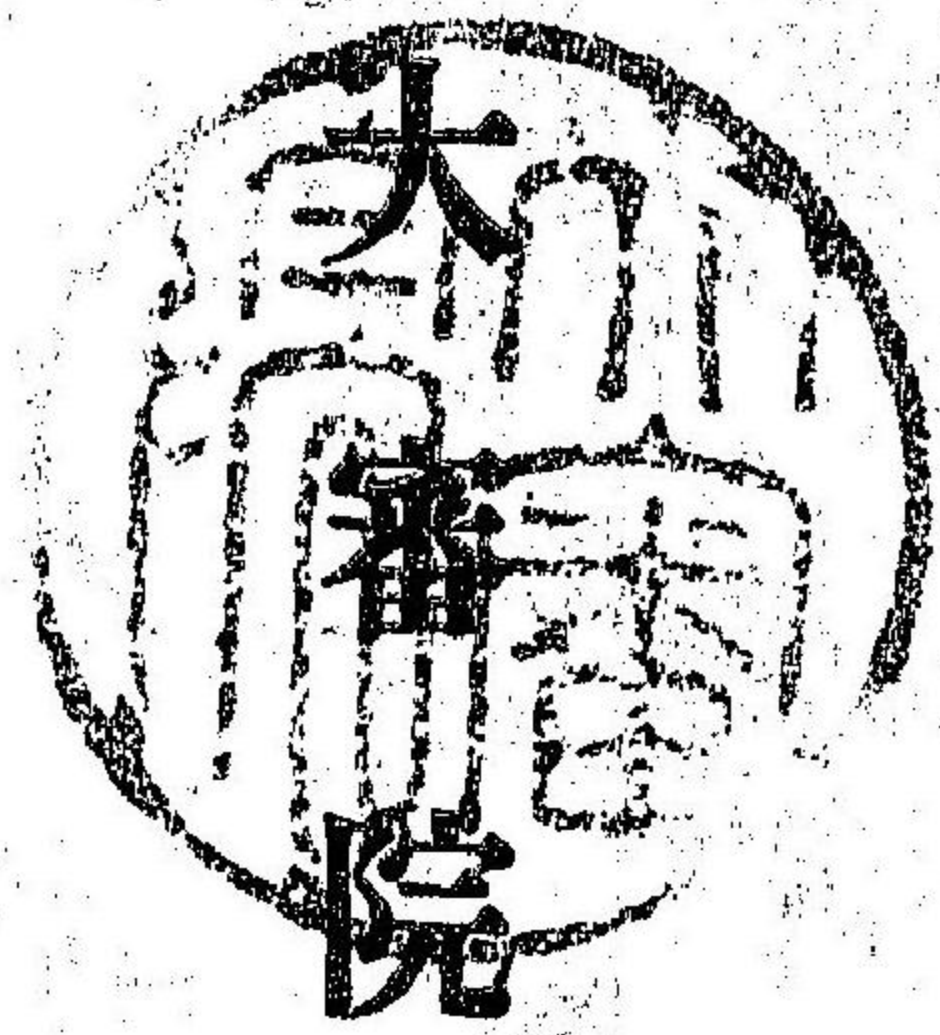
刑事人名音字目録

廣瀬 護之	告被	四十二年	れ六二九號	長崎	一四
平野利兵衛	告被	四十一年	れ六三八號	大阪	八三
東 萬	作外一名被	四十一年	れ七五〇號	長崎	八三
東 徳次郎	外二名被	四十一年	れ九三七號	宮城	二八
平川惣右衛門	告被	四十一年	れ一〇〇二號	東京	二八
森 鼎	三被	四十一年	れ一二四四號	廣島	七
森崎 龜	吉外一名私訴被 上告人	四十一年	れ八五號	大阪	二七
森方富三郎	告被	四十一年	れ四五二號	廣島	六七
森本 承	圓外二名被	四十一年	れ五九七號	長崎	七三
森田 源	一被	四十一年	れ九四六號	廣島	二九
百瀬 甚	藏外一名被	四十一年	れ九八八號	東京	二六
關 良	策外三名被	四十一年	れ一二三六號	宮城	三
チャールズ	ツイ、セール私訴被 上告人	四十一年	れ七四五號	東京	八五
杉木 米	吉被	四十一年	れ三六號	名古屋	二一
菅原萬次郎	私訴被 上告人	四十一年	れ九一號	宮城	二六

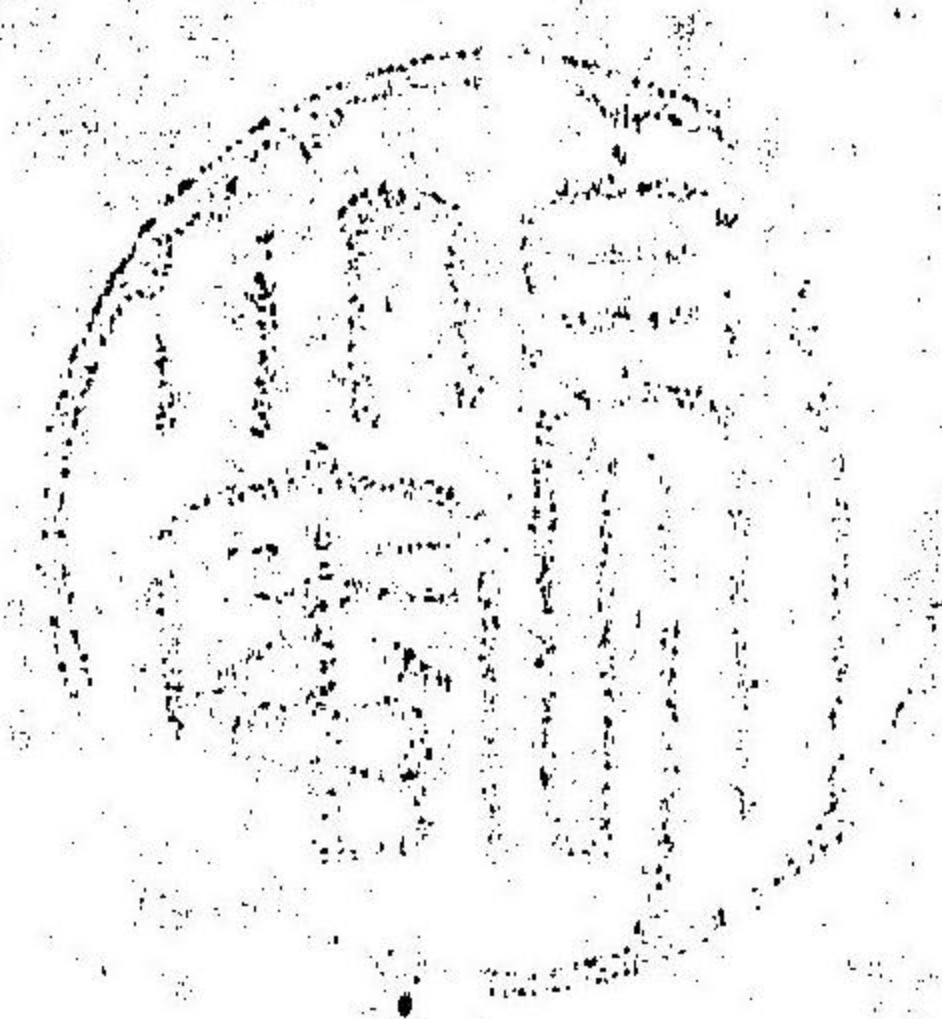
須田 寛	告被	四十二年	れ三四二號	東京	四六
鈴木三和吉	告被	四十一年	れ三五四號	名古屋	四九

著作權所有

明治四十二年十一月二十日著作
明治四十二年十二月八日發行



東京大學



東京市神田區錦町貳丁目貳番地

發行者 中央大學

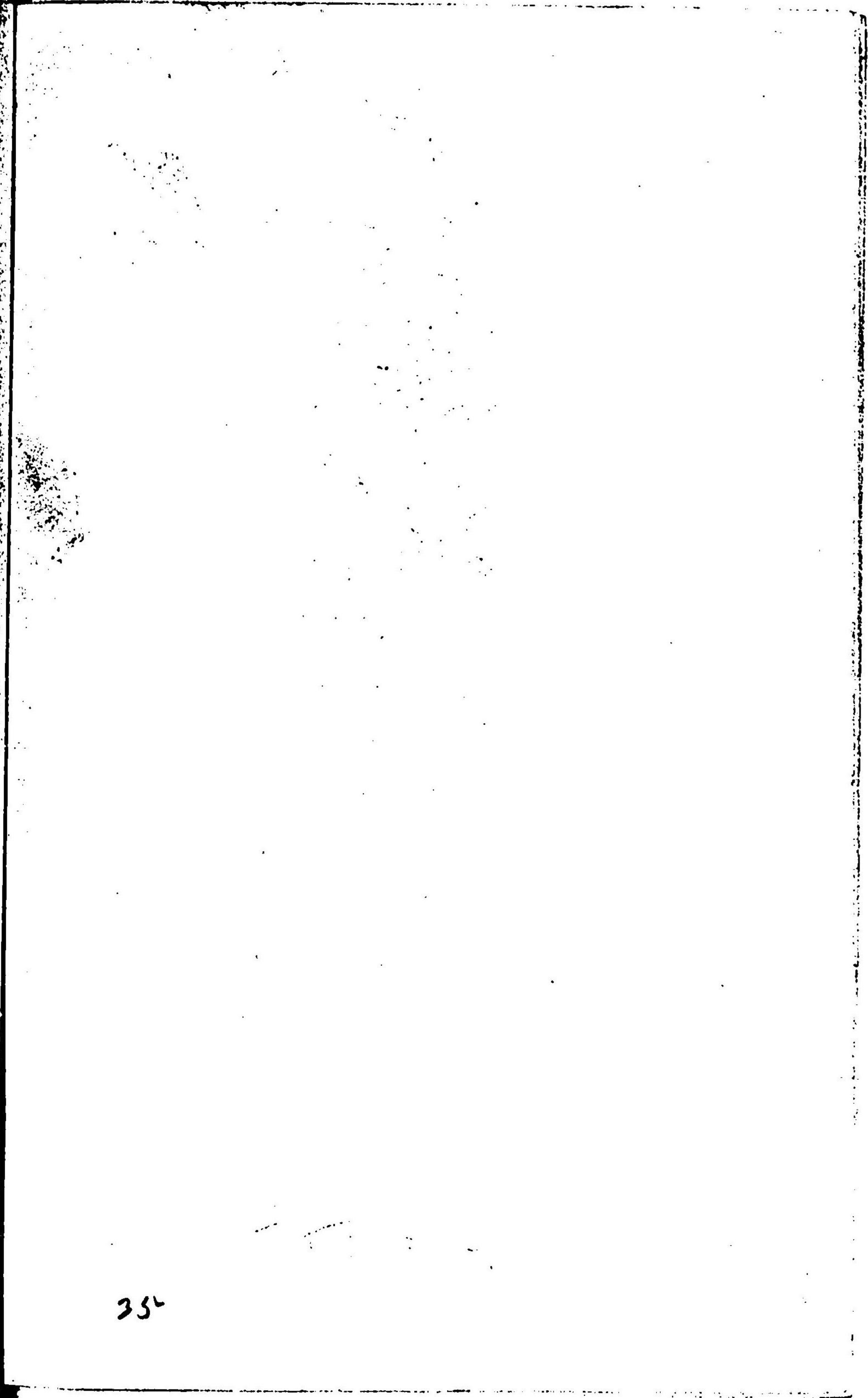
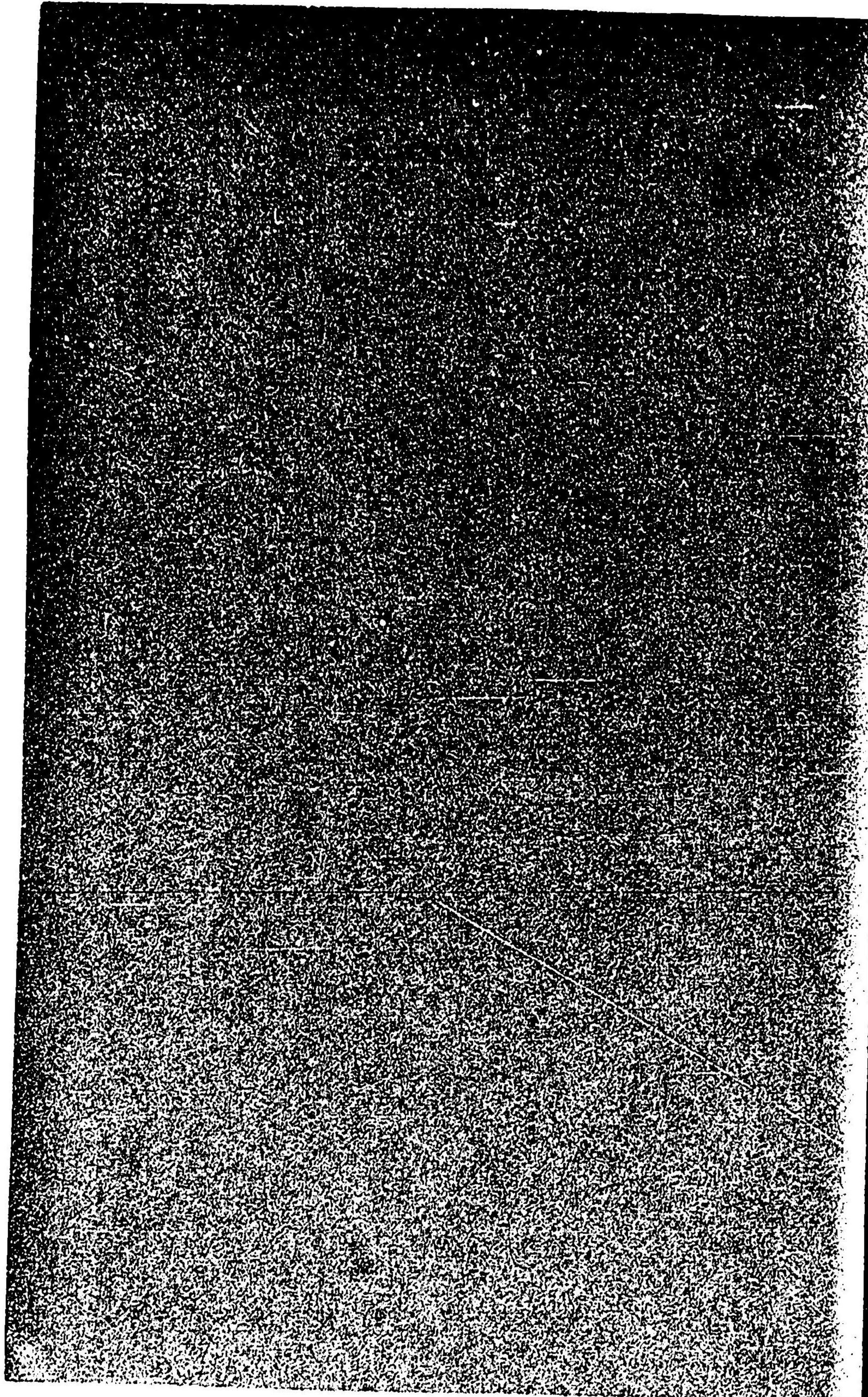
東京市麴町區內幸町壹丁目參番地

代表者 菊池武夫

東京市麴町區下六番町拾七番地

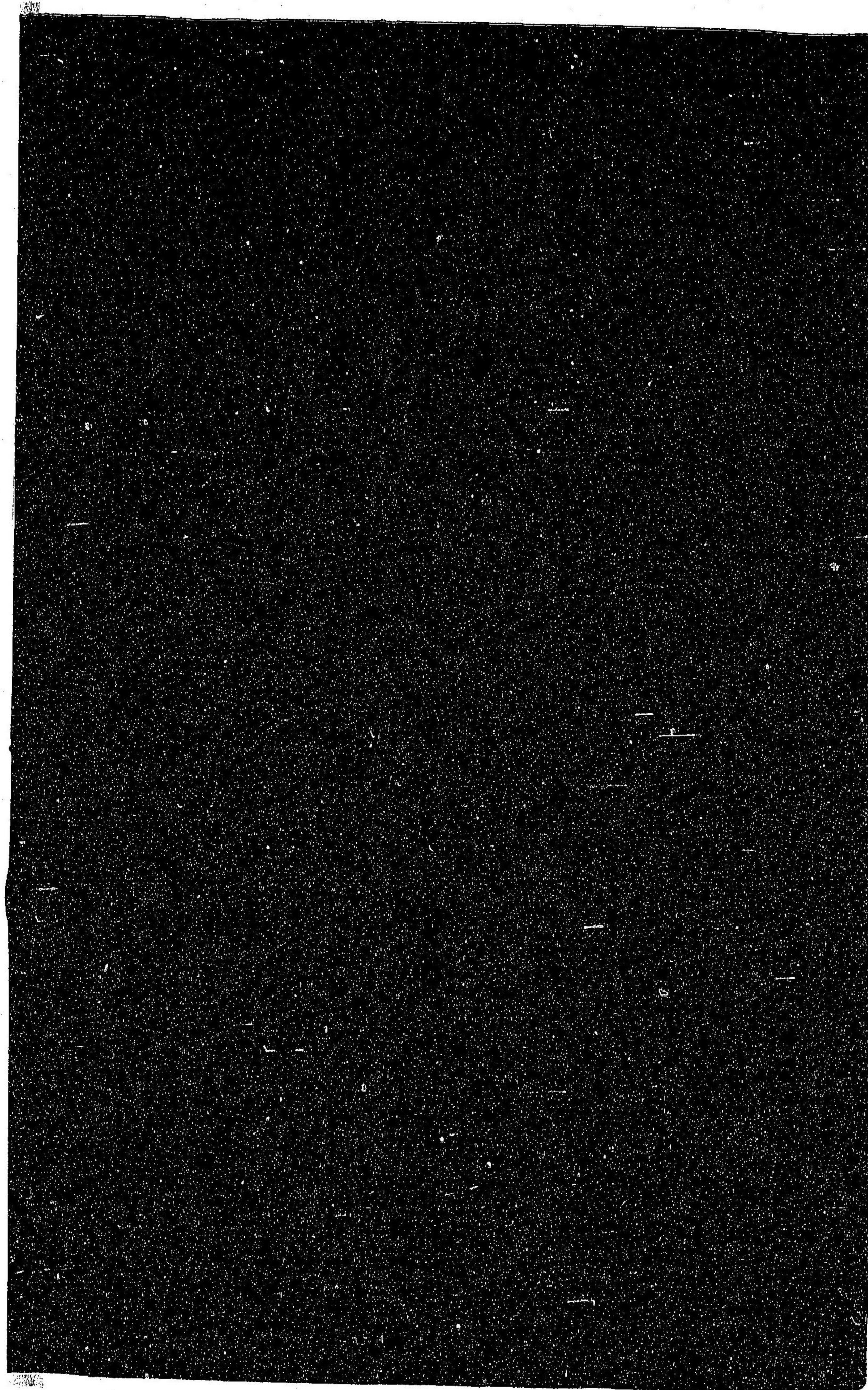
同勞舍

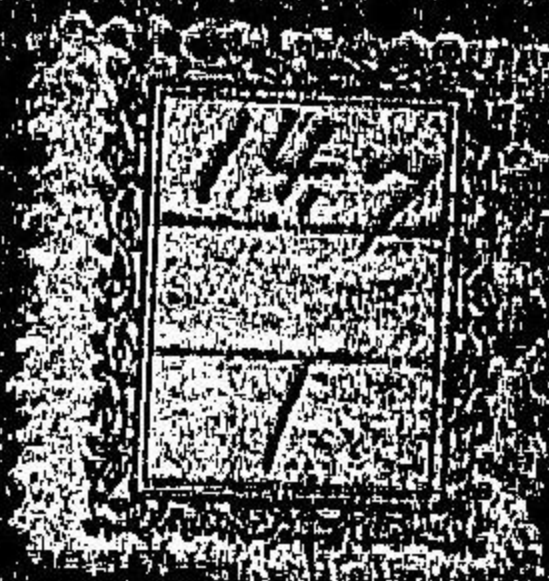
印刷者 松澤江三



35

14.07
1





禁電子式複写

036560-109-5

CZ-2114-03

大審院判決録

明24-27, 第1-17輯(明28-44)

中央大学

M24-45

BBR-0562



